



勢多宮名所圖會

ル 4
4599
2



門 4
號 4599
卷 2

伊勢參宮名所圖會卷之三



目錄

東國の氣宮の又街道より別して津の伊勢へ出れ
其の清素なるを指して伊勢と云ふ

- △ 桑名驛
- △ 同三條大明神
- △ 中臣神社
- △ 袖野山淨土寺
- △ 江場有王塚
- △ 佐野神社
- △ 尾野神社
- △ 瀧室山妙見寺
- △ 式部清水
- △ 太夫村
- △ 七里渡
- △ 桑名湊口
- △ 天武天皇御宮
- △ 矢田河原
- △ 町登川
- △ 繩生
- △ 金舟
- △ 小向
- △ 井尻神社
- △ 星川神社
- △ 智日山
- △ 朝明川
- △ 西富田三光寺
- △ 立坂神社
- △ 富田
- △ 鳥出
- △ 日市
- △ 諏訪神社
- △ 三重川
- △ 濱田
- △ 日永
- △ 四良山山觀音寺
- △ 退分
- △ 高岡川
- △ 天澤山龍光寺
- △ 津
- △ 津
- △ 若松
- △ 三日市
- △ 玉恒
- △ 矢橋
- △ 長古
- △ 津
- △ 栗生
- △ 三市
- △ 上野
- △ 白子
- △ 白子觀音

早稲田 大學 圖書館
昭 35.1.28 發
藏 書

△本送。御田。松島
△衣手山
△酒舟神社
△根上河松

△江戶橋。美石
△塔世橋
△國府阿弥陀

津 去津津
△愛宕權現
△惠育之知春の社
△阿漕浦

△大泉之上宮
△安濃松原
△岩田村
△神宮寺

岩田之園明寺
△岡麿寺
△岩田村
△小加良須御茶社

△波見
△志布見神社
△垂水
△小加良須御茶社

△望合社
△志浦
△雲津川
△小野右江渡

上野 茶屋
△雲津川
△中道。小津
△六好茶屋。渡川

曾原 右藏
△阿坂神社
△白米城跡
△石方片榎宮舊社
△東明山景德寺

忘井
△久米。塚本。松江
△利隴山藥師寺
△五百本森

松坂驛
△愛宕山龍泉寺
△光明山遍照寺
△少名彦名祠

梅松山菅相寺
△先福之朝回寺
△長田祠
△河島
△清水

△七見 日津社
△意悲神社
△下榎小川
△榎田
△大園玉神社

榎田川
△非服部機殿
△魚見社
△齋宮村

保津 天香山
△多氣川
△再拜橋
△齋宮村

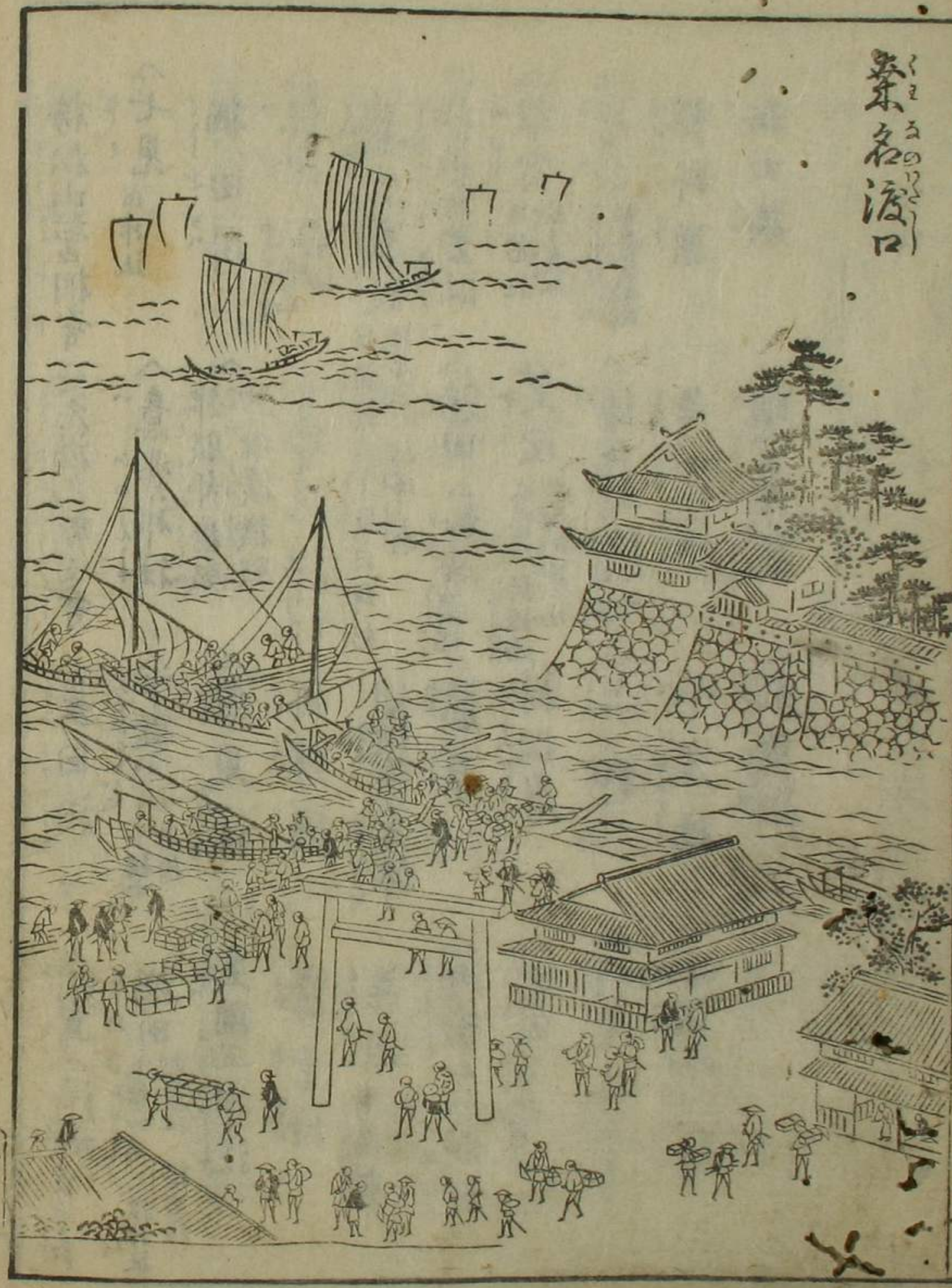
齋宮舊蹟
△勝回
△藤原
△花園

△北畠屋敷
△大渡
△村松岸
△御堂山
△濱村

△根倉 日津社
△湯田野
△上野
△宇田

△有尔 有尔神社
△熱合橋
△小窪橋
△明星 安養寺

△板回橋
△離宮院
△未曾漱
△小俣 無量寺



同天感天皇社

三傳明



羅山文集

曾聞二帝此停車
憾在吾邦未見書
今問先蹤人不識
誰廣風土補方輿





富田焼蛤

蛤

やう

啼

郭云

其角

名物まぐれ蛤

其練國より東宮の人海道より別きて津の江戸橋へ出た

葉名驛 城あり文禄年中一柳右京大夫築く不也人あふ余

新富商多く繁昌の湊あり古き多し又向ひ物産長崎より

傳して首領着氏領地あり 此河の北三里にして本曾川のふちの上勢及津の境

棋社一用連社としてありまを天目一箇命之神發ありて津又一枚及一枚あり

暴風社あり其地其津の地にして天目一箇命之神發ありて津又一枚及一枚あり

杖社あり其地其津の地にして天目一箇命之神發ありて津又一枚及一枚あり

今こと津と稱するを杖社と稱する一松の法ありまより津谷村麻呂ありて

葉名神社 式内之祭不大神命云 俗に三寄明神といふ是なり

葉名市中より傳へて東小の方あり○社傳曰く景行天皇の御宇鉄座天皇武天皇

大友の皇太子をとりて皇居りしときを時ふ地と稱すまゝて東園へ入移りんとて佛

社を修らせ給ひ此地は皇居をとりて皇居の地と稱すまゝて東園へ入移りんとて佛

土面記音讀は三種の神事とありて安調羅羅の女姓吉神といふ事地

中臣神社 式内春日大明神といふ 昔は依見院正應年中八月十八日

毎年七月十七日祭礼 試樂のいかりをのちりり 又八月十八日祭礼

ありて第十七日を試樂といふ公より社於御寄附領主も尊敬あり

て當所第一の神社あり 中臣の神社といふ春日大 〇袖野山浄土寺 葉名の

あり浄土宗本尊阿弥陀如來 ○江場有王丸塚 〇佐野神社 市の中

魚登川 系神推成彦命 ○尾野山尾野神社 素盞烏尊系神

あり 〇瀧室山妙見寺 葉名の詔光丁計系 系之城皇素盞少將祈願所にて心伏寺

あり 〇式部清水 此山の西の麓ありあり 和泉式部より来りて恒々の

あり 〇左支村 葉名のを村たりといふより代非樂柳系六組又三重郡阿倉川村より

あり 七里渡 旧名間遠の渡といふ天武天皇尾尾州勢田遷幸の時此渡海長

きありて間遠といふありて是渡を待置給ひしより

あり 〇古の月日るをのりして里に急ぐ夜半の舟人 不知誰人

此渡里の傍勢尾張の境本曾川の流合此山入る風あり時尾尾谷へ吹く

里渡りて又佐谷より陸地へ神鳥森をるく 〇鶴田 〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津

〇又佐谷の上半里は海ア郡津





代神樂の楽名の
 近村を代村と出た
 代を代とくしとて
 廣甲の代結入の代板
 誰とどの何物なるべし
 放下しぬとぞ其放
 を去るに



日永追分
 長明渡海記

日永
 新明
 立
 ちん
 ちん
 ちん
 ちん

海濱國牛乳天皇よりまこと
伊勢相治 東よりまゝいて東の方より多る小伊勢や尾張の海面を約し海のつと白くしるまで
いしくと約る此をきに浦とくくも海を渡り那 業平

▲素名御船場 海上より船の目高焼常夜燈番所の願あり

▲天武天皇頓宮 素名の所より北西斗西南交田村より信八岐の社より〇羅山紀紀日首法足
天皇此地より不徳國(隋)幸る終に我の願ひ成りて即位す天皇武帝是を皇居(天智天皇の所)とす

▲矢田河原 今ハ矢田町といふ 天仁十二年十月豊臣秀吉 御田信雄と相睦る一なり

▲城山 矢田一節左衛門尉兼三永録十一事織田右府信長公これを誌
代を〇三女狐 怪と云ふと人のいなり

▲野屋川 携のよみ百六十石は西に面よを江のふ

▲繩生 小向のふきねま 昔も金総の驛といふ〇金井 隣村といふ 即金総 〇伊

▲務邊 拜所といふから神戶の路ありといふ

▲小向 〇井尻の神社 今神明といふ 祭社 素名御船場尊式内之九也
右城の路あり是を材の城といふ 沼本三河入る宗喜 権兼一を私治三年に依本

▲星川 細き流をいふ 〇安渡寺 本尊観音

天津星川水も朝のうはる夜い安のけりといふありの哉
安野川やとの流ともいふ天の川のやをりこまは安渡寺を此の言より結けり

▲星川 松寺の 〇星川神社 所祭織姫の神式内なり

▲朝明山 素名とい日市の間花よりなる〇朝明川 海道よ
子の福ぬる朝寺のころまぬい霞をまけて花を散らす 定家

▲西富田三光寺 時田相摸守墓より文治三年一院御領にて時田
其府の守護人たりといふ〇三坂神社 式内祭神若守賀賀命

▲富田 〇名産焼蛤 〇名出神社 富田村の内右 式内之不祭鳥

▲鳴海 神とい伝社傳とお遠あり

▲日市 宿駅あり人五五六百軒海陸便よく勢島の地之
毎月六日市あり日市より約るなり号く此湊二所約遠法なり

▲日市 日永村より一里

▲富田 日永村より一里

▲鳴海 宿駅あり人五五六百軒海陸便よく勢島の地之

▲日市 毎月六日市あり日市より約るなり号く此湊二所約遠法なり

渡海御免に素名と目通り

諏訪神社 祭不建御名方命八坂刀賣命之 其地と江

三重川 日市の西内石橋あり

濱田 日向渡村より 二里あり

日永 海村のつき道より 二里あり 名産園扇 田畠川 長田川

四足八鳥山觀音寺 渡宮内流し 日市より 二里あり

忠上人 傳説神武天皇東征の時 軍利あり 太神宮 神依りて 八咫鳥を止り

退分 妻に初めなる 大鳥居あり

高岡川 倭橋あり 泉川 閼川の流いて 大川に 此上流を 加右川より

天沢山龍光寺 神戶の後花園院 勅願所 北畠大納言 滿雅公 建立

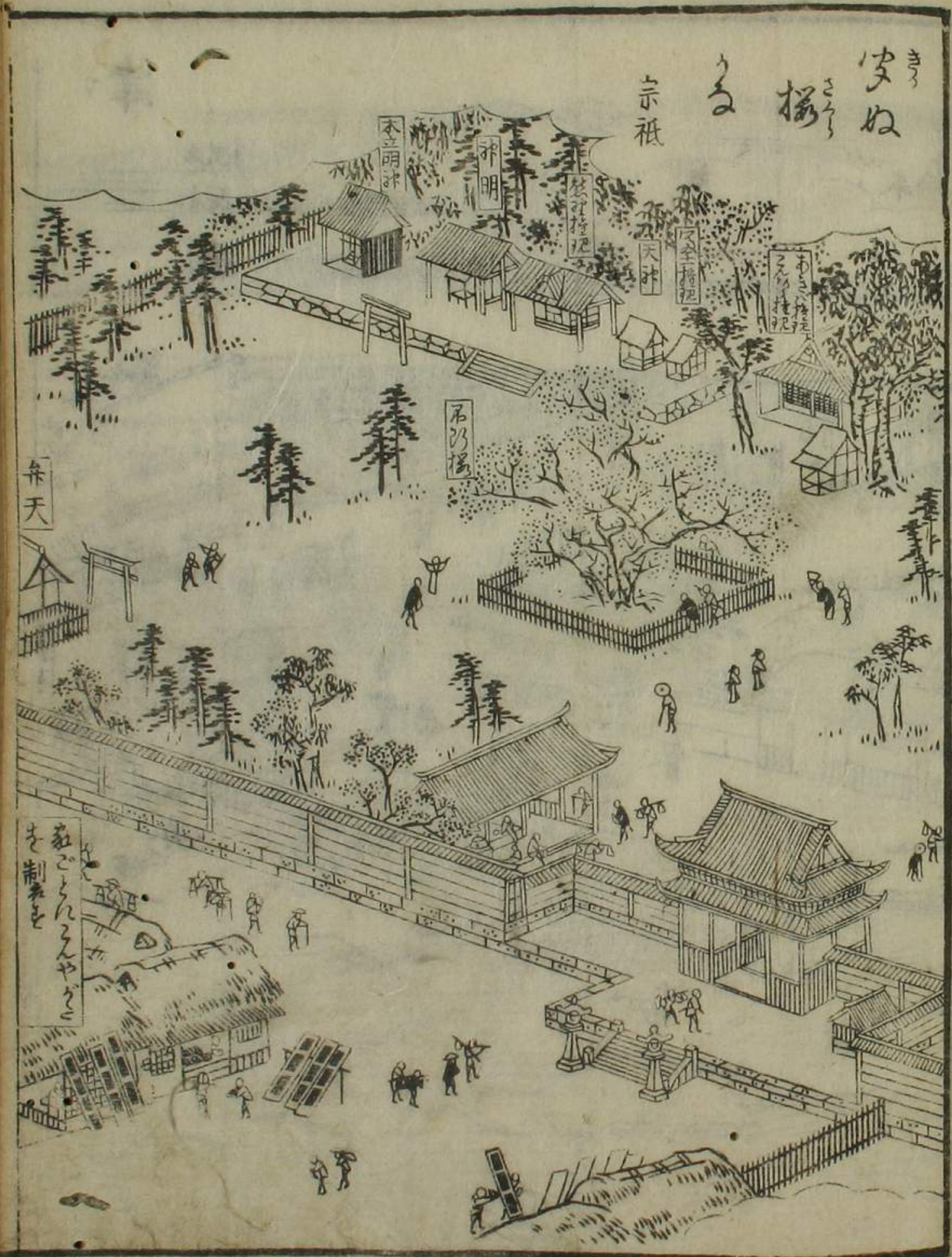
神戶 昔國中 神戶に 不の首 姓を居 倭戸 御所の地名も 大社

飯野社 神戶の町あり 祭神 飯豊姫命

金井林光寺 神戶の町あり 後之 聖武天皇 勅願所 千手眼 観

長古 此浦津 後之と云 古渡之 昔の 毛呂津 傳へ 渡海あり 其地 磯所 あり 糸より 渡り 渡り 川より 中より 渡り 舟人の ついで

中務卿



ちるこきんせん
 白子観音寺
 希とふだんさ
 石の橋

代
 宗
 石の橋

弁天
 石の橋



○若松（重聖）海濱松原の邊之天平十二年十月聖武天皇修勢國行幸御

○三日市野西の如來寺延在帝勅額不_レ少_レて三尊佛_{（子像あり）}

○玉垣白子古名（玉垣の庄）○弥都加伎神社式内にて系社土植作

○白子（本名寺）村自_{（俗稱）}南_{（奄藝郡）}より小川を限_{（川）}

○白子（白子の所）月報と云ふこれ漢の_{（見）}波もいと_{（み）}えま_{（ぬ）}り_{（那）}

○不_{（不）}都_{（都）}振（都の所）徳天皇_{（振）}都_{（都）}一_{（夜）}又_{（振）}都_{（都）}制_{（制）}を_{（と）}す_{（一）}種_{（種）}と_{（せ）}れ

○皇社系社未_{（盛）}鳴_{（尊）}○青龍寺高田流中○春日大明神社（已上在）

盛表記

○白子親音（美言宗）聖武天皇御願所_{（澄海公）}天平勝宝年中_{（建）}立_{（白）}

○不_{（不）}都_{（都）}振（都の所）徳天皇_{（振）}都_{（都）}一_{（夜）}又_{（振）}都_{（都）}制_{（制）}を_{（と）}す_{（一）}種_{（種）}と_{（せ）}れ

○栗真神社（白子の）式内（系社）兵部卿織部（今）勝女大明神と云_{（○）}大宮天

○皇社系社未_{（盛）}鳴_{（尊）}○青龍寺高田流中○春日大明神社（已上在）

○上野村宿驛也（此）不_{（不）}都_{（都）}振（都の所）徳天皇_{（振）}都_{（都）}一_{（夜）}又_{（振）}都_{（都）}制_{（制）}を_{（と）}す_{（一）}種_{（種）}と_{（せ）}れ

○大別保村（友）尾着神社式内にて系社天_{（細）}女命（○）弥尼布里大明

○大別保村（友）尾着神社式内にて系社天_{（細）}女命（○）弥尼布里大明

一社に春日八幡の社あり

大塔の宮寺を宝幢院と云津の領主の新願所毎年四月十八日御祈

禱あり○本孫村○裨田村○杖水村○誠智村○横地村○衣子

本孫にて裨田をわかれ杖水や穉地と云くゆらゆら此里

衣子の酒井川と云く小川の上あり

衣子の山入林藤と云麻のこくら淋しきと曝乃夢 於仲

○酒井神社 酒井川の傍あり 祭神秦酒公之此石郡山村と云

根上村 所前村と云く昔の山不付送の跡は老松の大本あり根上と云く根のまきと

根上り此松と云くけゆるむと云く波よと云くつりの里 子と漢人

江戸橋 大郡田の入口左りの方の古橋あり

兼所 中茶屋の今に修験者陰陽師の居る 其昔の如く修理少進景道公九多の附

加茂五郎景法其男加茂修勢守老貞其男兵衛尉光兼居たり光兼兼之多中 其男

門前と云く地名あり其跡は景法公の所と云くゆらゆら此里

塔世山四天王寺又護國殿と云 塔世川の曹洞流にて本尊大日如来た右

阿弥陀釈迦及に天王護護。去子堂。鎮三社其外佛像後。中事藥

師如来 兼師如来の七不思法ありて出たの迹と云く 續日本記天平九年聖武天皇諸國に

四天王寺建立の勅と下し 終に就中此寺も帝都にをきを以て諸國

に先達て建しむ此も早く停止ありて化ぬと云く 其後

加茂景道是を中真と 三月とあり 又四條院天福三年觀山快然東

遊して黄金の誕生佛を得て降り當寺医王殿に安んずと耐且

寺を傳りてさふよりて快然一菴を繕ひて去れ居住せしと云

錫を起して小嶽と云く永平寺道元禪師の繼と云くまふり

此寺禪宗と云く 其後文保二年甲午五月七日織田信長公の母公此寺にて逝

去り 是も信長生官の後 信包天正十一年より津の

寺に又十石塚を附し其の後長又多石田三成逆死のとき兵史より其後の建

たし 其の跡は 塔世川 塔世村 塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世橋 塔世川 塔世村 塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

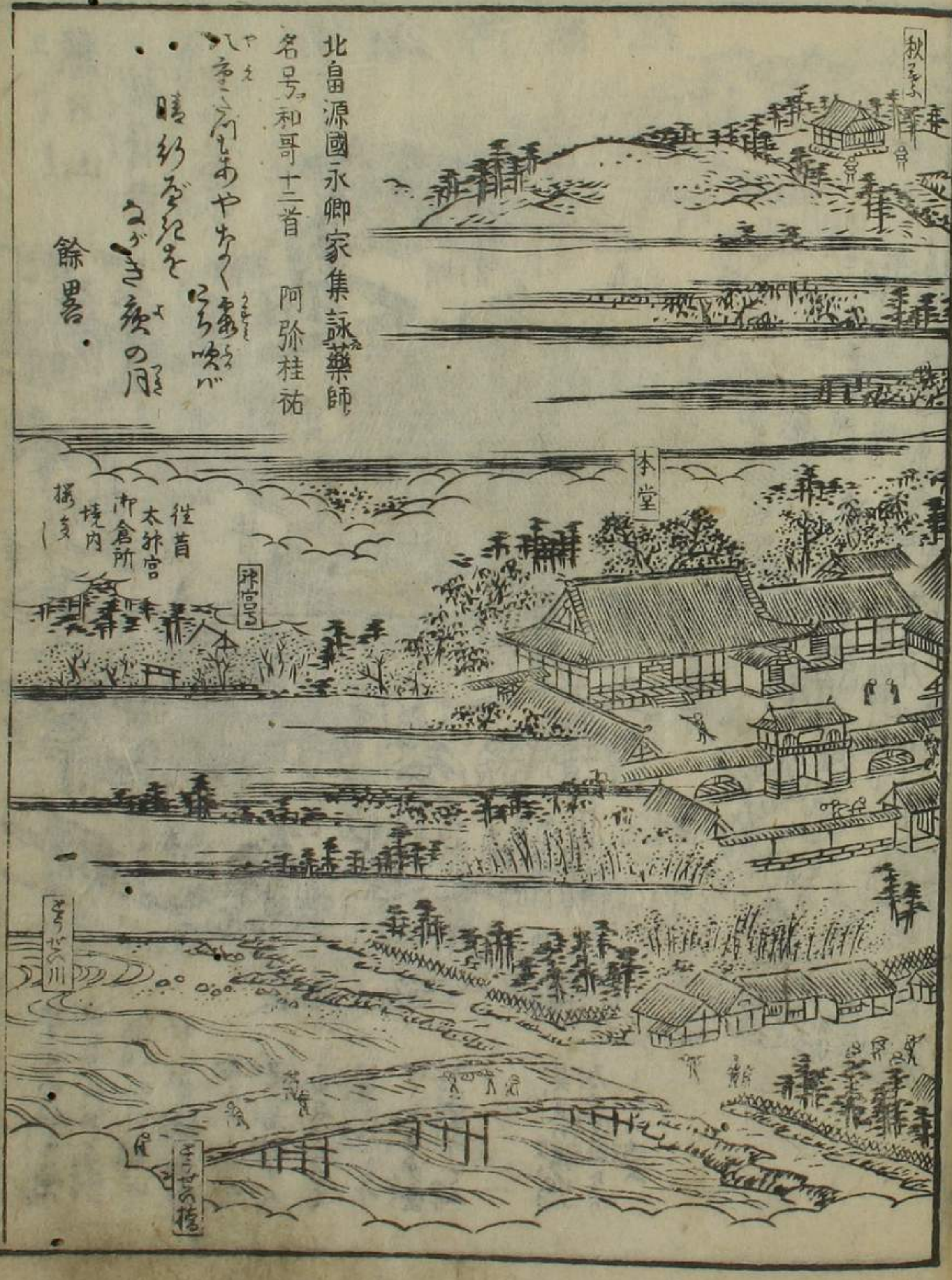
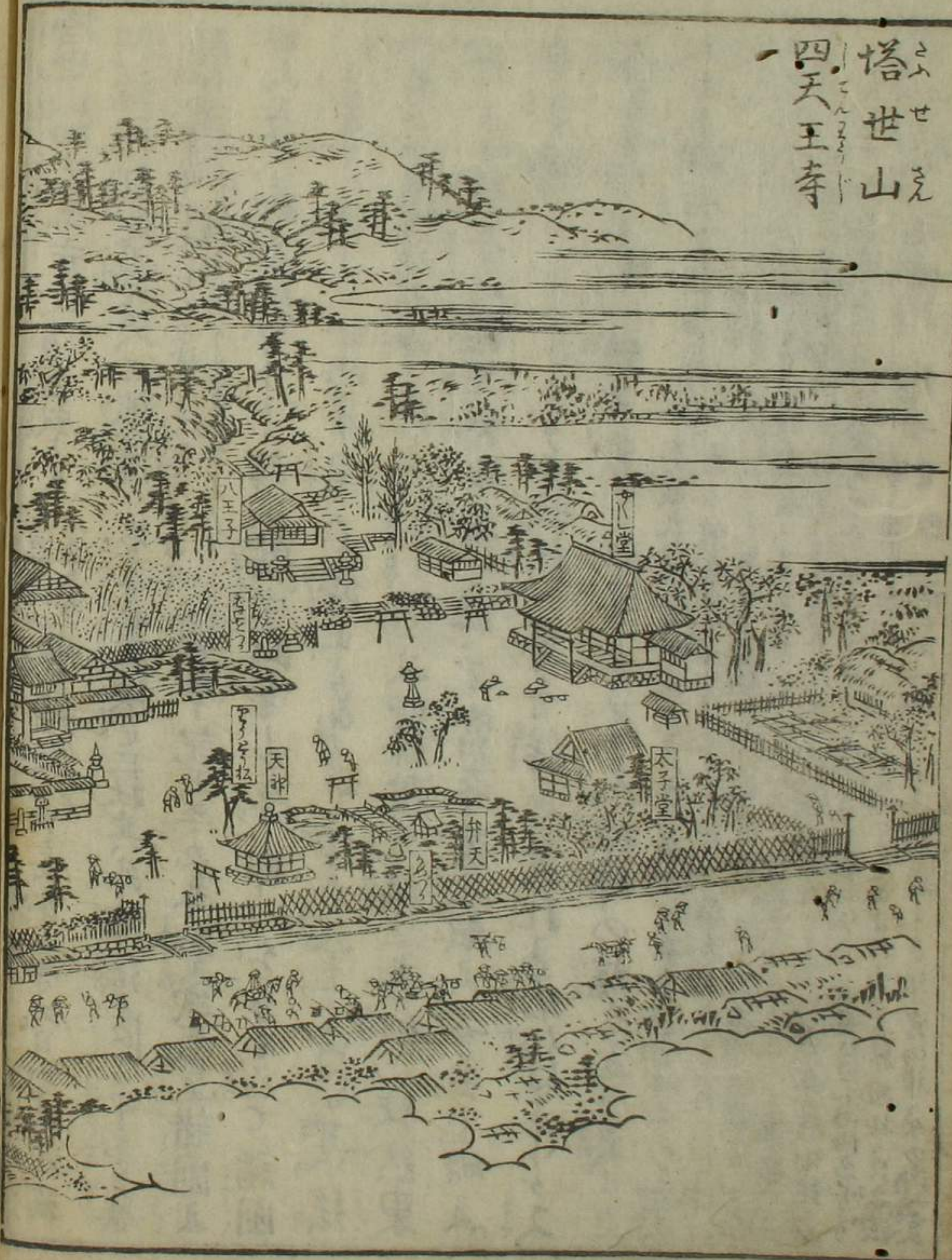
塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世川の在るに村あり 塔世川は石の地名あり

塔世山
四天王寺



北畠源國永卿家集詠藥師
名号和哥十二首 阿弥桂祐
いそよとあやかく
晴夕を記す
ふさぎ後の月
餘思



御前三月朔日御
 えて後堂内、御
 志敷丸調ふサハ
 深の若衆と和
 持成さきてお十人
 本教院の花瓜の
 先廻りて鬼沙門一
 人、大掛り琴相と
 出する鬼も具足と
 茶を拵分を人々
 襷褌と掲げ、中堂
 交入るこれ又付添者



國の府の阿弥陀
 惠日山
 観音寺
 鬼おの祭

御前、これを
 退、若衆十人
 白み、つらて
 鬼と切んとす
 かく、さうさ堂
 外三回、つて此
 具足、の儀、城入
 屋の遣、地、なり
 と、い、い、い、い

阿漕浦

いんぎん

あくらが

うら

てい

度

るん

を

ち

を

後照念院
関良政大臣



阿漕の
意を寫す
尚本支
阿漕の
意を寫す
尚本支



津 七十二町と云工高杉をたう人繁花富饒の地也○すを津と云ハ

右私名海濱の湊にてありあり向名安濃の津と云ふと云ふ津

と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津

武天皇十代の後胤出羽守平正樹の三男安濃津三郎平貞樹より平氏

明徳三多入月七日月七多六月十一日安濃の大地震又安濃津十八丁

の地へ移さる其後文祿の頃今の安濃津へ細野九郎左衛門尉義

十一多より藤田上総介信包殿と云ふ坂石垣を構へたり又天正十八年

あつ城下安濃津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津と云ふ津

附言亞將源親房卿洞津考と云ふものこの津の概略にしてるを洞津と云ふ

との文より其概略を云ふる

洞津の名りより洞津と云ふは格武の文にあり代々の和歌に多うと云

洞津と云ふ其書やまのりんか國の人のりる付は侍勢又洞津ありきや

あの中よりろのやうに安濃として侍りては國の國帳にて氏につま

の官としていひたるも後て今あの侍亦と云ふは此國といひてま

けり又た東門家として磯の侍りの中より侍亦と云ふは此國といひて

捕の捕とて侍亦と云ふは此國といひてまけり又た東門家として磯の侍りの中より侍亦と云ふは此國といひて

風さむさむさの枕差と云ふよそある浪ぬき神と云

愛宕山 格の西 此れを愛宕格現と云ふ岩城の子の石強主として塔

興社之延喜式社名帳に比佐豆知神社とあり是也 白子にも日名の社

惠日山親音寺 本尊如意輪觀音石像と云ふ 縁起曰元明天皇和

洞二年乙酉二月二日安濃津の浦より漁夫の網より出て出現

奇瑞殿聞に達し勅よりて伽藍造立ありしに慶長に年れ兵火

に焼亡し其後造立ありて真言の僧方奄藝郡窪田村の内蓬萊

山六丈院をこゝに移さる 今の大空院と云ふ幸坊と云ふ

松永の造り又此と云ふ安濃との沖厨と云ふ何所漕が浦沖勢の造り

寺に其名跡と云ふや。沖厨のつり既と云ふおと。 毎年来れを先を

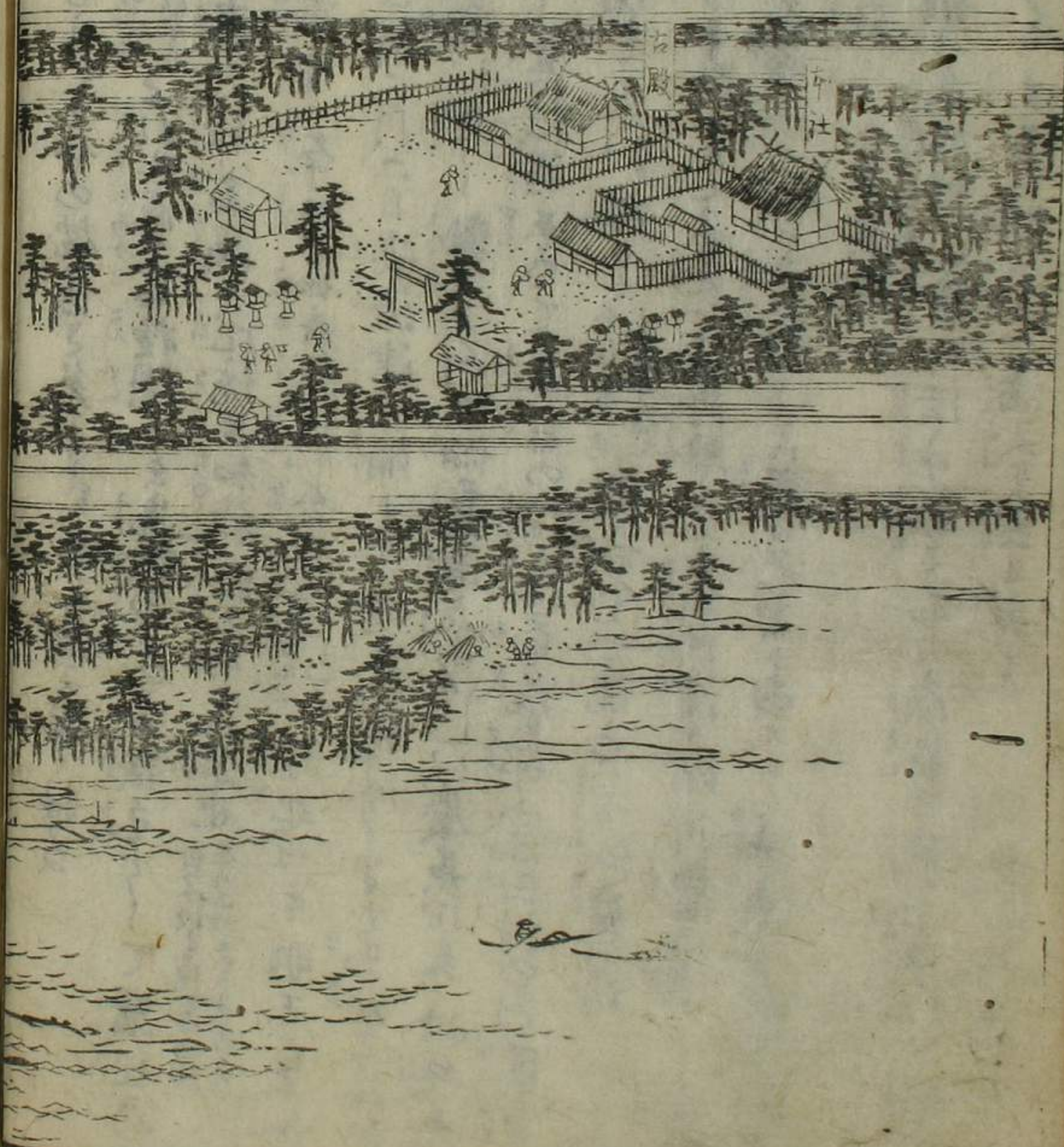
鬼押への神と云ふ其式

二月朔日未の修心會の法より神を祀る是南番の氏子妻竹と持て

エイくくと云て駈入る諸人も共々群衆十同音はエエエ

香良洲
御前社

多気窓雲云
昔西勢かす
参りて願成
ひえりゆと
まぐさよ
わらわの
文まより
いそい
さらぬ
かたき
よも
わらわ
そら



秋云いりり
此の鳥とま
麻瓜うら
按るは雅日女
祭るは鳥の縁
うま
や
祭後六月十六日
之又此神を白
おと紙よ包
やろこー藤芳
を具わらうして
又准て持抱とす
の留借ちうこれ
お祈るんがれ
ごー



所名

安濃松原

此邊の邊に

明應七年の地震に城下松原とも波は流り其

○阿古本社 寺内より然るに毎多七月十八日寺傍にあり

十六女之像 什物多る前立佛の像像針の像といふ其法を考へて勝曼経講説の像。太

元ハ律宗して今の高田流之開基宗詳和綱系中草創して奉尊ハも

大泉山上宮皇寺 聖徳太子の宮にして太子傍に於る紫雲寺也

國府の阿弥陀像 當國珍麻郎國府村上寺ハの安置方いと

寺荒廢して尊像雨露に朽んぬを抄して延宝の法ハ當の

三度大慶をあら 又牛玉頂哉の像式ありて神名帳を護む

又牛玉頂哉の像式ありて神名帳を護む

雲出川

雲づ川

細橋

栄雅

族



圖上ノ記

西多法師垂水成徳寺へ
 ともくこころふ小倉主の末
 うさのけりうたれをさる

さう兜と
 うれすう
 正 様
 のり



と知る西多
 不思のさいと
 かうぬ

所名 所名

新津の町と海との間ありしと也
 未
 いせの海あり松原のそももひ一日ぬるるこころ

安濃湊田 名寺
 お濃とこの湊田のつとむらぬもろぬちうり

安濃河原 神凡やせ落とゆきとむらぬのほ原と御鳴ちうり

又あの板橋のちあとも説くたれが暗くともい回地未詳

岩田橋 ちうり三千間
 津の町あり波満と此橋の下と岩舟入此西北の橋の西側
 に雷城の岩田口と云見附あり

あさほはは岩田松もあつておがはははやあの板橋
 隆心法師

岩田村 名村
 奮高の板橋にてお神宮の板橋織るるをこ個出と友に号く

北畠材親御の記より云々
 按るよ女様

阿右本浦 今津の橋下岩田橋より異
 ○阿右本塚 往來の阿漕町より東の方海邊

阿漕明神云々
 阿漕記云 安の浦をわくくつとさう浦をさうゆわくと海邊の細き海をさうりあり

所名

○按る河漕は地名よく元一堆の橋にてありしをへ一其地寺六昨網の頭とて
あやと瓜のたの橋よりく網のしをへりていふなり

此寺を築ていせの海ありき浦よりいふ所のいふかたははたにたりと云渡り
あきと人の名なり云濃の字をヨキと僕安津浦を借りたり云云云云と海
のゆいてきと本かんべりこれの橋本をこみ横たるとのまをよりてあきと
ゆいさるやあこの地をいふまふ二一官の内をこきあひと分とあこととあきと
のゆいあまの橋本の此浦はなまふ二一官の内をこきあひと分とあこととあきと
あきととて橋本つむあきと浦まがれり月教 同按宗俊公敏いふとあきとを
あきととて浦まがれり月教 同按宗俊公敏いふとあきとを
あきととて浦まがれり月教 同按宗俊公敏いふとあきとを

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは
ゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

○此書興書 明德二年十一月二日云 按るは此説據あきと小いれり彼次盛ウ刑と
系圖に人ど安元治義のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは六世のゆいとあきとをいふは

所名

此處より漁舟をうりきりし津の八海を其船後物を社記曰祭神天津
 雅女雅日女命とて伊勢諸伊勢冊御子天照古神の御妹にて
 おいでます欽明天皇の御宇天津國治田長狹國よりわたりすの地
 こころひし野の神とて教多身をわたり人の歌を満路人云
 神代卷に神の脊腹は織織せ給ひし時そののち船を運別にて
 氏に加良須考と云書をいひし社記より遠く小加良須社に加
 良須女の御子天水中至命とて度會延經の神名帳考證に
 稲系いなゑの神社と云説も破せり其辨説長文にてを引證多し
 固てこれを畧と其書とててるべし

▲星合祠 星合村 小祠七座を有る 此不背にわたりしは星合
 云波多神社也 不祭 棚搦姫神之友 星合神と云
 ○按る星合村を雅日女命命被服履は非衣を織しつひ又右徳拾遺に棚搦姫神
 傷身死とあり此よりいひわたりすの神社に付する書あり尚考へるべし
 伊勢の海名に記れて浪花のやとる星合の海

九条内大臣

所名

▲一志浦 十載集にせ給やつらりの浦の名 世傳や月のころのうたに吹雪
 垂水たるみづの浦 垂水といふの浦地の古名をいひては人垂水の君と云其(上)に
 の孫阿理真公孝元帝の御時たつた高樋と道早懸と板板成て垂水姓と場
 附言 又諒争孫云 垂水産信の後醍醐事法成る准后を引ひてふより圃を去て垂水且
 耕と其後大徳宮及び武成親皇より垂水産信を引ひてふより圃を去て垂水且
 嘉文記記射と云他一此書傳りては孫松坂の南隣村ありしと云

▲垂水山成就寺 長法寺とも云 本尊大日如來 貫の寺然を寺淵一終元龜の兵火に
 退治せり今いづの村の内あり余も其書よみしと云

▲藤瀨 津の浦一里 欽といひも浦といふもて右の磯と 林中本三抱斗あるありて
 宮の御厨之に九身内室敷とあり是を磯出の里といひては一方の浦とありこれ
 小島圃司のち家後方刑部少輔入る廣田住りしと云

▲高菜屋 茶屋まゝいしなり 鷹天といひ 小森 十社の宮あり石止神守
 建久元年良の内親とあり

所名

▲片樋宮 村の内方森あり他一其片樋の宮ありと云
 ▲上野 村あり 高菜屋 茶屋まゝいしなり 鷹天といひ 小森 十社の宮あり石止神守
 ▲島貫 村あり 雲出川 村あり 鷹天といひ 小森 十社の宮あり石止神守

所名

所名

文庫六十五百首
 雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼
 此川勢南勢山の麓之心畠園日ハ勢南を治めしにいつて承祚十二年信長伴勢を討んとする
 又まづ本道を望みしにいつて承祚十二年信長伴勢を討んとする
 川に雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼
 小野右江渡 小野の流に雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼
 小野右江渡 小野の流に雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼
 小野右江渡 小野の流に雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼
 小野右江渡 小野の流に雲津川せ入くまける苗代は秋の産こを兼て月々々ん 俊頼

所名

所名

所名

所名

小野橋の右江は架りたる瓜之屋と沖後の橋とも云
 又説小野の右江架りたる瓜之屋と沖後の橋とも云
 須川 雲出川の傍
 須川 雲出川の傍
 須川 雲出川の傍
 須川 雲出川の傍

曾原 須原村より二里半より三里半の里合村の
 古城址 日新左の耐等居之
 三渡瀆 曾原村の左の邊今六町あり
 糸流記云 松尾のつとて三渡の邊りつとて海へ入る

中道 此より下りの邊りのりやう向橋と云
 六軒茶屋 三渡の村より云修盤
 三渡の瀆 三渡の瀆りつとて海へ入る

阿坂山 一名神峯
 阿射賀神社 三座
 嬉野 阿坂の社
 阿坂山 一名神峯
 阿射賀神社 三座
 嬉野 阿坂の社

白米城址 小畠満雅卿應永三年に築く
 各方行権宮舊阿坂の東
 東明山景徳寺 小阿坂村の東

忘井 御石を入る方
 忘井 御石を入る方
 忘井 御石を入る方
 忘井 御石を入る方

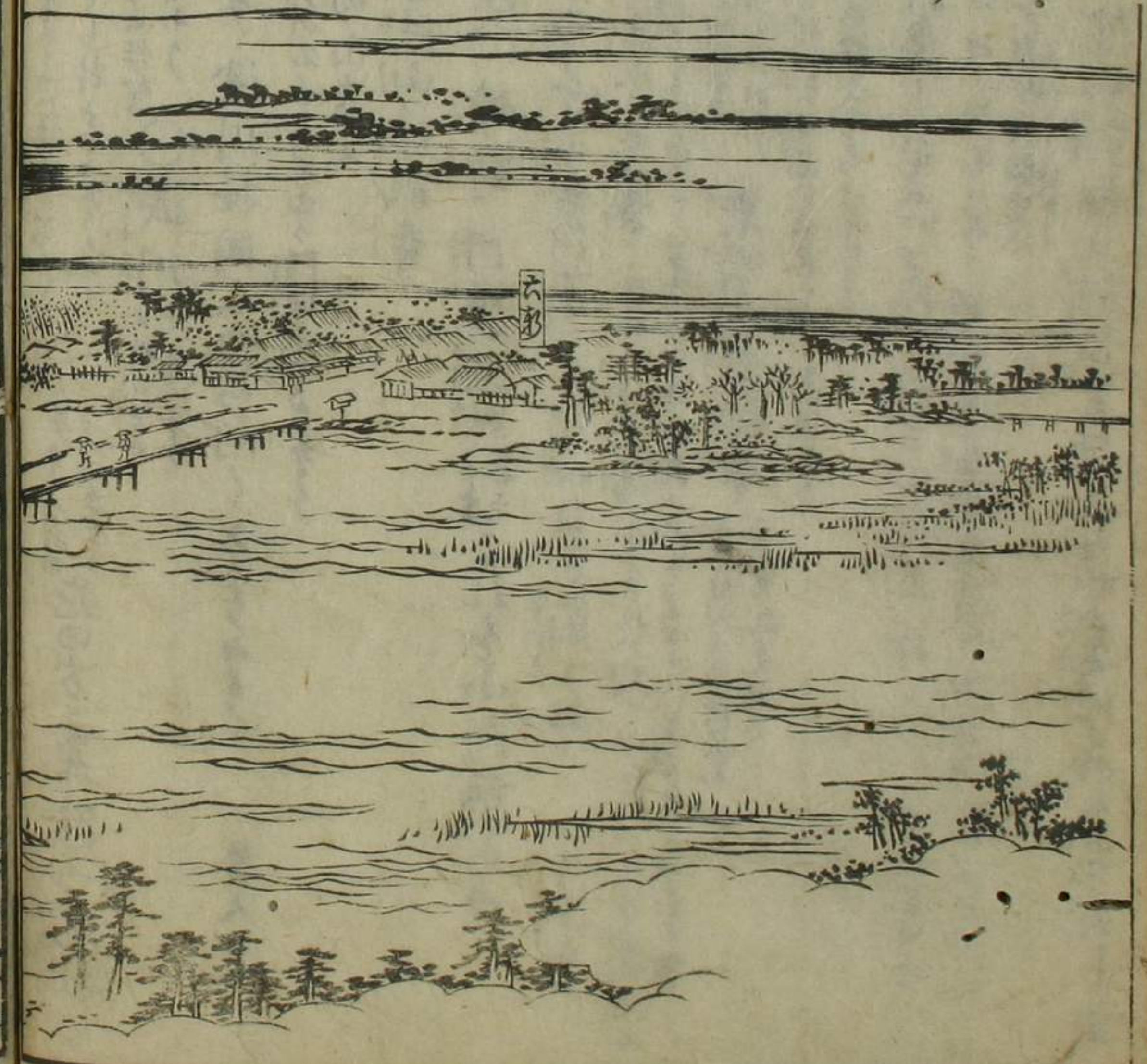
久米 按るに古路の二里を
 久米 按るに古路の二里を
 久米 按るに古路の二里を
 久米 按るに古路の二里を

新羅山真師延命院
 新羅山真師延命院
 新羅山真師延命院
 新羅山真師延命院

三渡川

長明任勢記より三渡川
と云ふ事あり渡干ぬきは
あつた此渡よりかたの
さへ人けりたるふか子
ぬきは松崎といふ所
よりうまな渡ぬき
うらたはえま
で尚遠くたぐり
市場といふ所
より渡干ぬきは
い其つらうの三
くまは三渡川とい
ふなり

三渡川の
碓氷越え人道

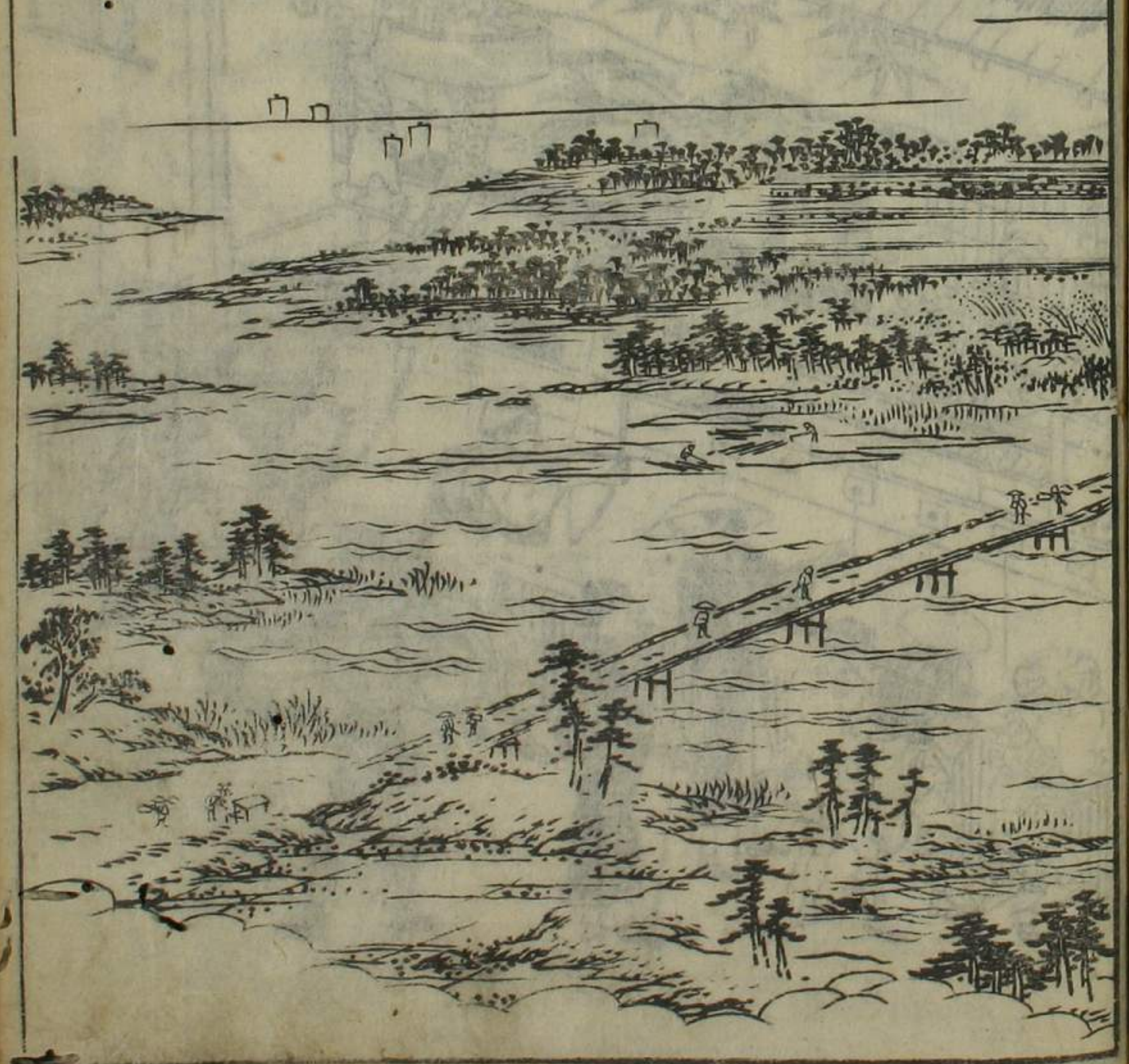


大城ぬり

かき
くま

長明

渡川を後世の
昔此やうな海中
ありし時其碓氷の
退く間をそ



援國的

佐賀藩の戦場
 中てはくみま
 首文原は怪多
 人かの難喉慶
 比ゆに國慶
 妻空か一々にが
 疾ゆく其女を
 といひ鬼一に食
 付もたまに教
 怖は其疾幸
 まで都の方のが
 是れさるる人
 びる人け備料
 何さう申あやう
 てはむつら
 ちろもあやう
 こころれ



忘井

天仁元年
 群衆の付忘身
 さんあうて



青官甲斐

忘井の
 群衆の付忘身
 さんあうて

松坂大橋
まつざかおほはし



西在の橋より見る水の上
月群下仁持村並各井池の
くもく石津村を舟人經て
備師子尾村の舟小川流る
海へ入る





愛宕山あだかやま
龍泉寺りゅうせんじ
愛宕権現あだかごんげん

四百五森

今の松坂の所の名を...
松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

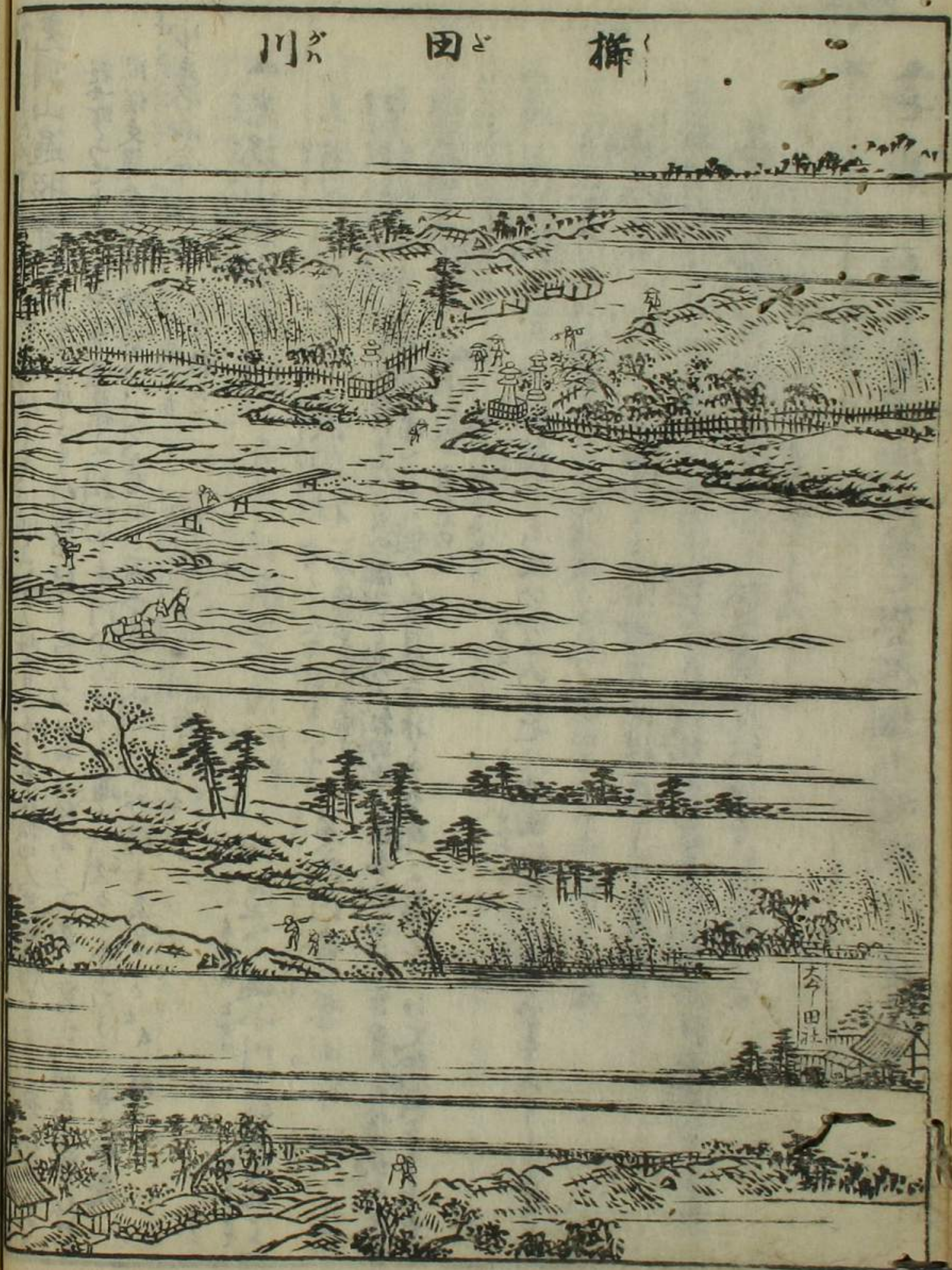
松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

松坂 津より入里...
愛宕山龍泉寺...
庄中の...
島の...
減...
松内平生村...
其の地...
其の地...
少名及名命社...
光福山朝田寺...
長者の街...
長田社...
長田社...
清水...
汲人...

七見

七見の御書...
七見の御書...
七見の御書...
七見の御書...

川 田 櫛



本田社

櫛五社

きんぎょ
くしだ
川あや
さね
事ね
神の
あふ
うら
櫛ねん

河の青柳宮櫛をめぐり
移り及ぶ美のふりて櫛田門と
やの首の下極小川の此所へ入る喜
川へ入るなり



櫛四社

櫛田社

意懸神社 飯高郡野飯村の垂仁天皇廿一年癸丑十二月廿八日飯高の宮

後しては奉養其(同)飯高飯野代 今是を神饗宮又神宮と云ふ

飯の宮云々 飯高飯野代 今是を神饗宮又神宮と云ふ

下樋小川 右の宮の東に小川あり是を首脊内親王其外勅使等之神宮の境と云ふ

此川は櫻して是より鈴の音止む 鈴の音は若狭の境と云ふ

下樋小川の橋打て引渡して代々の御代に於けり

大榭神社 延喜式に記す榭田榭本神社之系不榭玉神と云ふ

榭田社 大若子命 今若子村の元は榭の社と云ふ

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

榭田川 榭田川 榭田川 榭田川

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命

魚見社 川崎村あり 石祭月護神玉命



神麻湊機殿

舟は村よりあり候
 上流より古名
 津奈の里
 以東流るゝ
 相模と云ふ



神服機殿

大垣村より
 松坂より東二里
 佐々下流と云
 又古名服部の
 里と云ふ

石井
 前社
 八幡
 春日
 稲宮
 機殿



稲置川 舊名竹川
 又後川とも云
 昔勅使を安んじしうまうて
 後を修らざるを
 近頃の後としし下樋小川
 の後ハを境とせし

〇三冊後
 嘉永の是と後年の
 本巻とつ

齋宮村
 創幣使休
 和泉屋

齋宮旧跡
 儀々女官の表

築師
 朱清記云 齋宮
 築りぬつちの築
 地の跡と申す
 本の名きあり
 名居の跡あり
 う屋よこたれを
 人たしめかくとあり



世とはくふ本
 とのしそを
 今又本の名右海
 及植りま月二六
 の社あれとも右
 はいつは女官の
 名あり之儀と
 御宮とありハ
 深りあり



大園玉神社 云御祖神社 六根村あり此不 保津 六根の 天香山社
社系神 千姫命 四月廿一日ハ御祭日 頼業義と六根保津七尾魚

多氣川 一名 稻本川 又後川 今の姓来より北又古道あり 昔より 勅使の道

式紀る 後と傳とるの式あり 後戸の森と云ふも今ハ官川 其

竹川の橋のほつちから花園 我をはゆるせ免さく 漢人石

再拜橋 幸一 後川の後場 今も花園のあり 其の御祭日 花園のあり

斎宮村 昔 斎宮あり 又号 斎宮を制す

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり

斎宮齋王 別後 斎宮の斎王の斎宮のあり 斎宮のあり



大淀濱

伊勢物語
大淀の濱
中へ入る
かた
かた
かた

おやよとのま
大淀松
西大淀村
海濱あり

かたよのま
おらま
かたよのま
かたよのま



建保が合能宗あり

大いし浦
群居る友の
あそび日かげ
あそび日かげ

けいふ
あそび日かげ
あそび日かげ
あそび日かげ
あそび日かげ
あそび日かげ
あそび日かげ
あそび日かげ





明星

のぼる茶屋

をうごけり

うしろあり

又着せり

あつて

た

産金

命日奉の去二月皇太后(孝)る若伊勢母宮(斎)の始なり三月(宇)治
の秋宮より(氣)郎(多)守の御(宮)瓜(向)き(方)城(口)町(宮)舎(造)宮(し)
竹の宮(と)稱(一)代(の)秋(内)親(王)美(仁)神(と)其(皇)霜(九)百(廿)二(年)を(經)て
和(天)皇(天)長(元)年(甲)辰(秋)九(月)竹(の)宮(より)皇(太)神(の)幼(孫)遠(一)と(て)度(會)
郡(湯)田(郷)の(離)宮(と)な(さ)せ(給)ひ(一)其(後)十(六)年(を)經(て)仁(明)天(皇)乃
美(和)六(多)宮(舎)一(百)余(宇)一(耐)燒(亡)と(よ)り(再)ひ(多)氣(郎)竹(の)宮(より)し
き(り)其(後)又(仁)百(八)十(余)年(を)經(て)後(宇)多(天)皇(の)御(女)弟(子)内(親)王(と)七(十)八
まで(秋)皇(意)り(給)ひ(と)其(の)後(醍)醐(天)皇(の)皇(女)弟(子)内(親)王(母)宮(と)は(は)し
と(よ)り(元)亨(の)兵(亂)を(參)事(幼)と(よ)り(て)元(の)秋(宮)と(稱)一(南)都(長)安(門)院(と
ぞ)中(孫)ひ(たり)是(より)伊(勢)母(宮)の(幼)孫(と)は(は)れ(る)

○定(齋)宮(事) 延(永)式(曰)天(皇)位(且)即(孫)先(母)王(を)定(む)り(内)親(王)の(系)統(せ)ど
る(者)を(ト)ひ(其)家(の)内(面)内(外)の(門)は(本)綿(賢)本(を)立(れ)其(後)日(と)撰(て)大(宮)の(大)後
と(よ)り(其)後(又)孫(中)の(後)不(瓜)ト(ひ)き(ら)て(神)の(秋)院(と)て(明)年(の)七(月)と(は)入
孫(又)宮(外)の(孫)不(瓜)ト(ひ)八(月)上(旬)吉(日)を(ト)して(加)茂(川)又(孫)で(孫)く(常)の
御(殿)より(新)く(遷)御(遷)の(地)を(と)り(其)本(の)を)居(小)葉(垣)と(し)る(時)宮(入)孫(と
そ)托(つ)の(俣)素(を)と(り)孫(小)と(よ)り(時)宮(と)ひ(て)明(年)八(月)を(托)ひ(と)し
籠(り)て(九)月(上)旬(又)又(又)又(又)又)月(又)孫(で) 齋(宮)忌(詞) 佛(と)中(子)と(よ)り(經)を(深)成(申)
後(く)伊(勢)母(宮)入(り)せ(孫)小(也) 齋(宮)忌(詞) 佛(と)中(子)と(よ)り(經)を(深)成(申)
後(く)伊(勢)母(宮)入(り)せ(孫)小(也) 齋(宮)忌(詞) 佛(と)中(子)と(よ)り(經)を(深)成(申)

齋(長)願(を)女(發)長(娘)と(行)膳(これ)を(内)の(七)言(と)ら(し)死(と)る(と)る(病)を(や)と(て)
哭(と)陸(密)血(を)所(興)打(を)極(空)を(さ)び(る)墓(と)壤(これ)を(外)の(七)言(と)ら(し)又(堂)と
香(燈)優(婆)塞(と)角(若)と(よ)

○齋(宮)釋(幼)の(巡)踏(は)奈(良)の(系)統(の)例(と)ま(す)と(其)巡(小)倭(河)口(國)波(多)
宮(古)月(本)一(志)曾(原)飯(高)駒(野)多(氏)利(清水)坂(本)秋(宮)小(俣)山(田)堂(洛)本(と)は
○齋(宮)席(京)の(次)守(は)出(所)あり(て)多(氣)川(の)御(後)あり(て)一(志)の(秋)宮(と)是(二)日(と)
川(の)秋(宮(と)是(三)日(は)伊(勢)母(の)塚(を)と(り)塚(の)東(あり)御(湯)成(身)御(服)八(幸)
欄(入)て(各)々(奔)御(衣)多(忌)都(又)場(此)不(れ)御(衣)を(新)く(造)給(ひ)新(興)又(是)二
所(深)の(秋)宮(と)是(三)日(名)張(横)川(と)後(あり(て)大(和)都(意)の(秋)宮(と)是(四)日(と)
又(日)和(小)川(と)後(あり(て)大(安)寺(邊)希(奈)良(坂)を(と)り(小)城(お)樂(秋)宮(と)是(五)日(と)

河(内)茨(田)美(子)の(御)省(不)又(是)七(日)難(波)三(津)濱(安)曇(口)三(石)の(後)あり(大)河(原)の
御(厨)使(不)れ(ゆ)孫(此)附(三)津(寺)祖(祖)漏(あり)八(日)又(是)子(の)御(省)不(は)九(日)
河(陽)宮(山)より(十)日(京)入(孫)の(櫻)接(の)具(は)よ(と)の(指)三(安)藤(本)俣(本)
綿(麻)大(祿)人(像)布(酒)雞(實)魚(海)陸(膳)水(戸)杯(多)尾(柏)乾(美)味(本)
食(度)鞞(記)經(帳)多(其)後(十)日(孫)川(の)下(孫)人(像)盡(と)る

齋(宮)繪(馬) 秋(宮)の(喪)小(舎)あり(二十)月(三十)日(孫)後(馬)を(り)例(より)諷(曲)の(繪)馬(と)つ(と)此
後(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て

孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て
孫(は)其(馬)と(す)り(孫)の(例)と(は)ま(す)孫(又)又(孫)馬(と)り(孫)名(は)孫(と)る(と)孫(の)後(成)れ(て

をて年の暮に... 村の中心... 此結するのるは...

大佛 御所の右 蓮光寺と云ふ... 此寺の棟より南へ湯田と経へ...

笛川 舟宮村の 此道より佐々川の杜あり... 舟宮村の...

花 園 此園の中心あり... 此園の中心あり...

竹川の橋の落たるを... 我をばゆるせし...

思ひやるつり... 舟宮集...

舟溝池 舟溝のほとり... 舟溝のほとり...

星より 海道を左右へくぐるの古路... 舟宮寺...

北島屋敷 舟の上まゝ... 舟の上まゝ...

勝回 和屋 舟宮村... 舟宮村...

公海塚 舟宮の宝物として... 舟宮の宝物として...

地 舟宮の... 舟宮の...

藤原 舟宮の... 舟宮の...

淡村 真名胡神社内宮末社の内... 舟宮の...

根倉 佐々川の神社式内... 舟宮の...

根倉神社 舟宮の... 舟宮の...

國御祖神社 舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

舟宮の... 舟宮の...

所名

▲大渡濱 俗名 大渡の濱あり昔倭姫命皇去神の神輿を運ばしと云ふ
拾遺記 大渡の御後歳子にぬらん神さひひくは破の姫まひ 兼隆
此松延室多中大凡く例すと其以の御代官其松と植て自二首の首をそ入り

▲大与栢神社 祭神 豊玉彦神 式内之 ○駒除池 日添の女玉所後の所
此右松をんで文堂を仰り長安者又引ひらるといふ事あり

▲村松岸 大渡の東の村ありて河津幸の地あり
夫木 此松の具のまるといふ村松の麓の波のひきこたり

▲宇回 天海回水大乃自神社 祭神 豊玉姫命
を宇回といひく有尔村の乾よあふ今なり

▲有尔 田丸より一里あり ○有尔神社 不祭 天徳日命 土師氏の祖神と有尔村
以て両宮は毎年三千八百八十の出巻と仰りて更と是と出師内巻と云とて此邊に有尔と云

▲曙の宇回の畔より三嶋のまのりく喜や万代のりど 俊頼

所名

所名

小侯 離宮 院 舊 趾



中臣氏社
春日明神

内外神宮遊拜所



高宮
高宮より上流
高宮より下流
高宮より中流

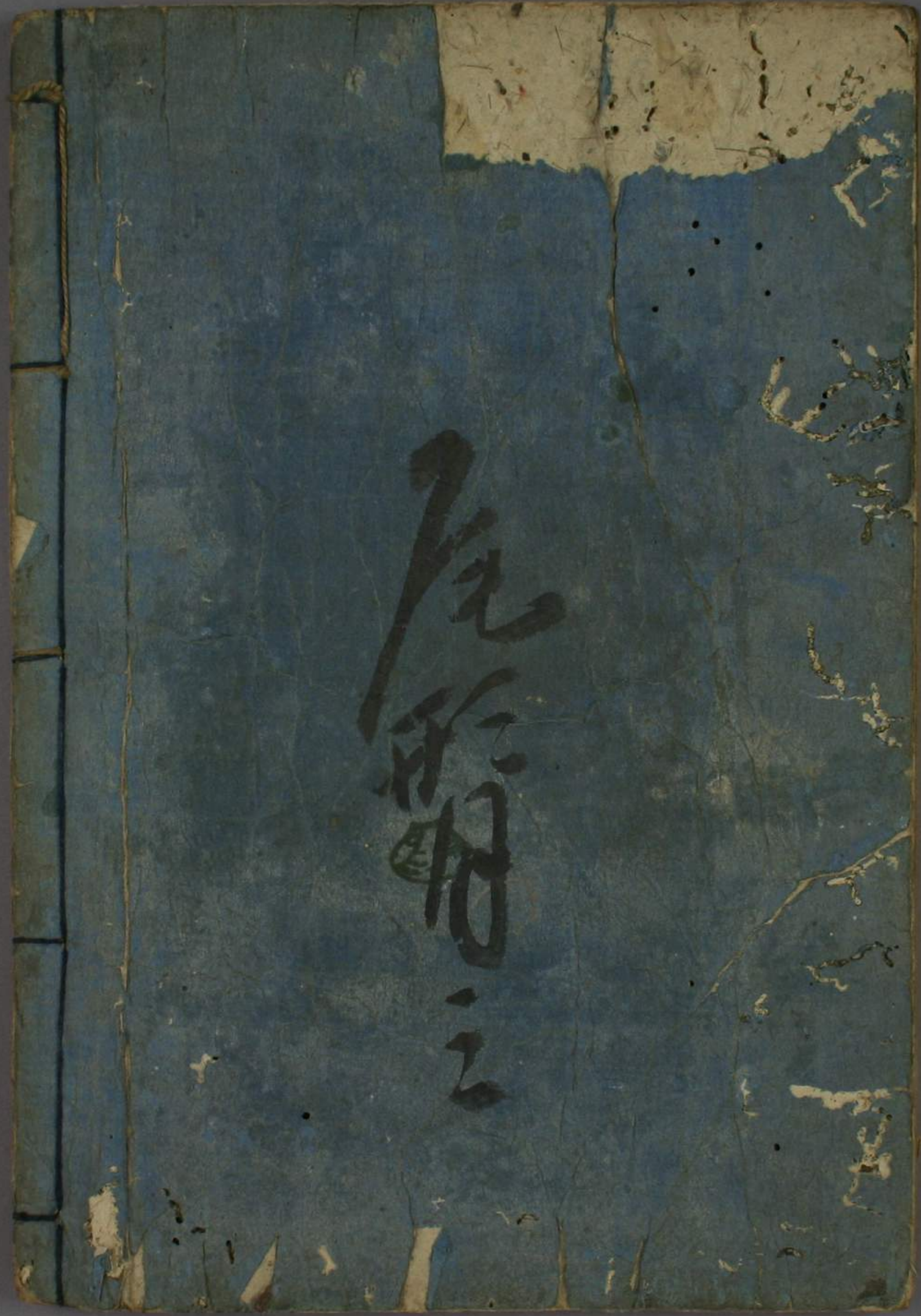
高宮

小俣社

小俣

○是より南に田丸村あり
村中田丸禪正丈那の靈符
田丸城 虎藏を康基寺
○西へ山手後波奈主家宅
既相可八相可上社
富向山田宮寺
所矢野神山 木多社
伊藤神社 伊藤村あり
飯高 高宮 以余
名區多々なしとも
此ノ界と





阮所題